

●生理学若手サマースクール2003開催報告

玉川大学学術研究所脳活動イメージングセンター 松田 哲也
京都大学大学院文学研究科心理学教室 高橋 晋

今回で3度目となる生理学若手サマースクールは、8月3日から5日の3日間東京医科歯科大学において開催された。これまでのサマースクールは日本生理学会若手の会主催で開催してきたが、今回のサマースクールから日本生理学会と日本生理学会若手の会の共催となり、学会主催行事の一部となった。そこでこれまでの運営体制を変更し、アドバイザー、コーディネーターによる運営体制をとることにした。今回のアドバイザーは、日本生理学会会長の金子章道（慶應義塾大学名誉教授）、これまでのサマースクールにおいても良きアドバイスをいただいた泰羅雅登（日本大学医学研究科助教授）にお願いした。

今回は「神経活動の記録・解析とその情報表現—記憶と学習のメカニズム—」をテーマに開催し、医学、工学、心理学、薬理学といった幅広い分野からの申し込みがあり登録者は約200名であった。この中には前回、前々回からのリピータも多く含まれている。本サマースクールが生理学を研究する若手研究者に役立っている証拠であると思う。

このサマースクールは、学会などではなかなか質問できない、若手からみると“偉大な先生方”に質問ができる、とっておきの機会である。実際、講義が終了した後は、毎回講師の前に多くの参加者がならび休憩時間終了間際まで熱心に質問していた。講師の先生方も「元気な若手がこんなにかいたのか！」と感動しておられた。また、講義には研究経験の浅い学生や自分の専門分野と離れている学生も数多く参加しているため、実験、解析方法にはじまり、それがどう解釈され、何がわかるのかが十分理解できるように構成されている。これもこのように参加者が増えている理由の一つであると思う。

今回初の試みとして、講義初日に生理学の基礎を理解、復習する目的で「Basic course」を設置した。後のアンケートでわかったことであるが、参加者ほとんどが「Basic courseはためになった。是非来年も続けてほしい」という回答であった。生理学分野で研究を行っている若手は多くいるが、その基礎をきちんと理解できる場がなかなかもてない若手が多くいると実感した。確かに、医学部では生理学に関する講義・実習があり、その時間は十分ではないにしろある程度理解できる場はもっていると思う。しかしそれ以外の学部出身の場合、生理学に関する講義数は極端に少ない。このことから、本サマースクールは、生理学の基礎を十分に理解する場を提供することを念頭において開催することが必要であると痛感した。次回からベーシックな内容をより充実させるため、生理学の基礎が確認できるような講義としてMorning Lectureを行う予定である。これは毎朝テーマに沿ったコースが始まる前に1時間「早起きは三文の徳」的な発想で行おうというものだ。

本サマースクールの受講を卒業単位の一部として認める大学・大学院ができた。参加者からの参加した証明がほしいという要望があり、希望者には修了証を発行することにした。これは、本サマースクールが若手の交流のみならず学術的にも認められてきた証拠でもあると思う。

毎年恒例となった懇親会もおこなった。例年参加者に自己紹介をしてもらおうのだが、その自己紹介を聞いていてふと思ったことがあった。それは、参加者全員がサマースクールに参加した目的をしっかりと持っていたことである。これは、“あたりまえ”のことかもしれないが、“教授に言われてなんとなく”といったような強制的ではなく自主的にという気持ちが現れていたことに感動した。

また酒を飲みながら、楽しそうに「今やっている研究は…」という内容の話をあちらこちらでしていた。その姿を見ていると、みんな本当に研究が好きなんだと感じさせられた。

第4回サマースクールは2004年8月1日～3日に開催する予定です。「運動制御」を題材にしてこれまで同様、生理学の基礎から応用までを学べることを目標とします。詳細は決定次第お知らせいたします。サマースクールに対するご質問、ご要望がありましたら担当の松田 (tetsuya@lab.tamagawa.ac.jp) までご連絡ください。多くの方の参加を望んでおります。最後にサマースクール事務局設置などご協力いただきました東京医科歯科大学心療緩和医療学分野松島英介先生、また今回もお忙しいところ、交通費、謝礼なしで懇切丁寧に講義をしていただきました多くの講師の先生方に感謝します。

生理学若手サマースクール 2003 プログラム
(Basic course)

8月3日 (日)

- ・脳科学の話を理解するための基礎的解剖学
泰羅雅登 (日本大学大学院医学研究科応用システム神経科学)

(Applied course)

8月3日 (日)

- ・記憶と学習のメカニズム
塚田稔 (玉川大学工学部)
- ・ワーキングメモリーの神経機構
船橋新太郎 (京都大学大学院人間環境学研究所)

8月4日 (月)

- ・心理学的アプローチから捉えた記憶と学習のメカニズム
渡邊正孝 (東京都神経科学総合研究所心理学研究部門)
- ・記憶課題中のニューロン集団の活動と脳内情報表現
桜井芳雄 (京都大学大学院文学研究科心理学研究室)
- ・臨床神経心理学からみた記憶と学習のメカニズム
加藤元一郎 (慶応義塾大学医学部精神神経科)

8月5日 (火)

- ・学習・記憶と加齢による記憶障害の分子メカニズム：ショウジョウバエによる分子遺伝学的研究
斉藤実 (東京都神経科学総合研究所 分子神経生理研究部門)
- ・ヒトの記憶の生物学的基盤
藤井俊勝 (東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻高次機能障害学)